

**蘭学の発達** ※名称…蛮学(“南蛮”から) →<sup>1</sup>**蘭学**(オランダ中心)→洋学(幕末:英仏も加わる)

☆西洋人の来日 <例><sup>2</sup>**ケンペル**・ツンベルグ・シーボルトら →帰国後、日本を紹介  
..... 1775. 来日 スウェーデンの医師・植物学者 『日本植物誌』  
..... 1690. 来日 ドイツ人医師 『日本誌』(付録に「鎖国論」…志筑忠雄が翻訳)

[I] 『解体新書』(1774)以前…蘭学の誕生前夜

新井白石と<sup>3</sup>**シドッチ**(1709. 密入国)を尋問→『<sup>4</sup>**西洋紀聞**』(極秘)『<sup>5</sup>**采覧異言**』(将軍に献上)

吉宗の実学奨励 漢訳洋書の輸入制限緩和(1720)

<sup>6</sup>**西川如見**(天文学者・長崎通詞)『<sup>7</sup>**華夷通商考**』1695)を招く

<sup>8</sup>**杵木昆陽**(儒学)・<sup>9</sup>**野呂元丈**(本草学)にオランダ語を学ばせる

☆<sup>10</sup>**平賀源内**(1728-1780)…**本草学者**(『**物類品鑑**』)他にも様々な分野で活躍

<例>エレキテル・寒暖計・石綿(火浣布)・洋画・鉾山開発(秋田藩など)・滑稽本・浄瑠璃脚本 等々

[II] 蘭学の誕生：18世紀後半～19世紀初

(A) 医学・語学

『<sup>11</sup>**解体新書**』1774…『ターヘル・アナトミア』の翻訳 西洋医学の紹介

<sup>12</sup>**杉田玄白**・<sup>13</sup>**前野良沢**・**中川淳庵**・**桂川甫周**ら

..... 苦心談→のち『<sup>14</sup>**蘭学事始**』1815  
..... ツンベルグと交流

<sup>16</sup>**大槻玄沢**…医師 玄白・良沢の弟子 私塾<sup>17</sup>**芝蘭堂**[江戸]1786

『<sup>18</sup>**蘭学階梯**』1788…蘭学史とオランダ語入門 **オランダ正月**(太陽暦での新年会)

弟子<sup>19</sup>**稲村三伯**…医師 『<sup>20</sup>**ハルマ和解**』1796. 初の蘭日辞典 「江戸ハルマ」

※「長崎ハルマ(ズーフハルマ)」…1816. オランダ商館長ズーフが編纂

<sup>21</sup>**宇田川玄隨**…甫周の弟子 『**西説内科撰要**』(1792. 翻訳)

**華岡青洲**…全身麻酔による世界初の乳ガン手術に成功(1805)

(B) 天文学・暦学・測量

本木良永(通詞)…『**和蘭地球図説**』『**天地二球用法**』(1774) コペルニクスの地動説を紹介

弟子<sup>22</sup>**志筑忠雄**(通詞)…『<sup>23</sup>**暦象新書**』(1802訳)ケプラーの法則やニュートン力学を紹介

麻田剛立(豊後→大坂:医師) 独学で天文学 日食予測、暦の誤りを指摘、太陽の黒点や月面の観測など

弟子<sup>24</sup>**高橋至時**(幕府天文方)・**間重富**…幕命で**寛政暦**を作成(1797)

弟子<sup>25</sup>**伊能忠敬**…下総の商人 地理学者 …幕命で**全国測量**(1800～17)

『<sup>26</sup>**大日本沿海輿地全図**』(没後の1821年に完成 軍事的理由で秘蔵)

[Ⅲ] 蛮書和解御用(1811)以降…蘭学の発展と幕府による弾圧

1811. 幕府、<sup>27</sup>蛮書 <sup>わげごよう</sup>和解御用 設置…翻訳局 <sup>28</sup>高橋景保 <sup>かげやす</sup>(至時の子：天文方)の建議

<例>百科事典『厚生新編』 →洋学所 →蕃書調所 →…開成所

1823. <sup>29</sup>シーボルト 来日(1823)…ドイツ人医師 帰国後『<sup>30</sup>日本』を著作

<sup>31</sup>鳴滝塾 [長崎]創設(1824) →高野長英、小関三英、伊東玄朴ら

1825. 無二念打払い令

1828. <sup>33</sup>シーボルト事件…帰国時に日本地図など所持→国外追放、高橋景保獄死、弟子50人処罰

1837. <sup>うだ</sup>宇田川 <sup>がわようあん</sup>榕庵 『<sup>せいみ</sup>舎密開宗』 翻訳 化学書 ※舎密は化学(ケミストリ)の訳語

1838. <sup>35</sup>適塾 (適々斎塾) [大坂]…<sup>36</sup>緒方洪庵の私塾 →橋本左内、大村益次郎、福沢諭吉ら

1839. <sup>37</sup>蛮社の獄 …<sup>ただあき</sup>鳥居忠耀(町奉行)ら幕府保守派による蘭学者の弾圧

<例><sup>38</sup>渡辺崋山(田原藩家老・洋画家)・<sup>39</sup>高野長英(陸奥出身・町医者)

…<sup>40</sup>尚歯会(蘭学者グループ)への蔑称 他に、江川英竜・川路聖謨・小関三英ら

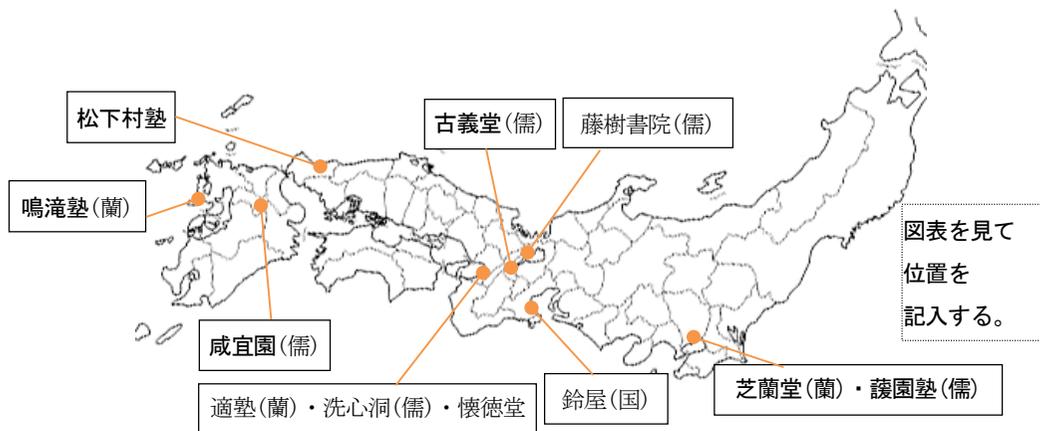
1842. <sup>41</sup>高島秋帆 <sup>しゅうはん</sup>の投獄・幽閉 ※鳥居ら幕府保守派による弾圧

…西洋砲術の研究 徳丸ヶ原で練兵(公開演習)1841.

弟子 <sup>42</sup>江川英竜(伊豆葦山代官) →<sup>43</sup>佐久間象山 <sup>しゅうざん</sup>(信濃松代：開国論) →吉田松陰・勝海舟ら

1846. <sup>げんぼく</sup>伊東玄朴…牛痘の接種に成功(天然痘の予防) →種痘所設置(1853. 民営)

→1860. 幕府に移管→医学所(1861)



【正誤問題に挑戦】<センター1994 追試験より>

- ①志筑忠雄は、『暦象新書』を著して、ニュートンの力学やコペルニクスの地動説を紹介した。○
- ②大槻玄沢は、『蘭学階梯』を著すなど、蘭学の普及につとめた。○